

入試改革先行大学に聞く！

千葉商科大学

▶千葉県市川市▶5学部7学科▶入学定員1410人
▶1928年の創立以来「実学」教育を実践

学力検査だけでは見られなかった「育てたい」学生が入学

—今年度から始めた調査書も評価する一般選抜「総合評価型入試」の成果は？

総合評価型は、学力試験2科目（200点満点）に、調査書の評価項目（評定平均値、出欠状況、取得検定資格、クラブ活動等）を点数化（40点満点）して加え、合否を判定します*。この入試は“落とすための入試”ではなく、「学力試験では1、2点足りなくても、本学および志望学部・学科のAPとアクティブ・ラーニングを軸にした実学教育にマッチする」受験生をすくい上げることを目的としています。「調査書評価が高いために逆転した」という合格者も数名出ており、本来の目的にかなった結果が出ました。

何よりの成果は、入試の判定会議で、調査書を見ながら「この子を育ててみたい」という声が教員から出たことです。これまでの入試は、受験生＝学力試験の「点数」でした。調査書評価を導入することで、受験生一人ひとりの「顔」を見る＝一人ひとりを多様な側面から評価するという点において効果がありました。入試結果を見ると、総合評価型は他の入試と比べて入学率が2倍弱高くなっており、本学への志望度が高い受験生が利用したようです。

一方、課題は調査書評価の得点が10点以下の受験生が一定数いたことです。今後、本入試制度の目的をより広く伝えるために、さらに広報に力を入れる必要性を感じました。すでに新入試世代の高1生向けに、「入試改革」そのものを解説する入試ガイドを発行し、その中で本学の新しい入試制度についても紹介しています。

入試改革に関連するその他の検討事項

検 討 事 項	目 的 ・ 内 容	進 行 状 況
学生データの拡充	▶新たな入試設計のためのエビデンスデータ取得	▶IRプロジェクト部門、各部署のIR担当者と連携し、「学生表彰制度」表彰者のデータを本年度中に分析
作問・採点体制の見直し	▶作問担当教員の負担軽減 ▶導入を検討している小論文試験の採点者の確保	▶作問担当教員の増員を検討 ▶文章校閲の外注化を検討
アドミッション・オフィサー制度の導入	▶面接試験の質の向上 ▶面接担当教員の負担削減	▶入学センター内で検討中

*千葉商科大学の入試改革の詳細は、本誌2017年7-8月号、2018年3-4月号で紹介している。Between情報サイトでも閲覧可能。between.shinken-ad.co.jp/between/



—2021年度入試に向けての展開は？

総合評価型の拡充については、初年次の入学者の追跡調査を行ったうえで検討します。定員は拡大する方向ですが、調査書の配点も、入学後の活躍状況により高めてもよいと思っています。本学で学びたい学生が受かる入試に育てたいですね。ほかにも学力の3要素を測るような多様な入試をそろえ、さまざまな学生を募集する予定です。

入試改革のヒントとなるのはマーケットではなく在学生

—入試改革を進めるコツは？

入試改革は「欲しい学生（＝自学で成長する学生）を取るためのツールが増えること」とシンプルに捉えてみてはどうでしょうか。「学力」だけの評価では、本学が求めるような学生を獲得できないばかりか、何より彼らの「顔」が見えません。

「欲しい学生像」は各大学で決めるべきことですが、そのヒントとなるのは目の前の在学生です。本学では、入試区分別に在学生の単位取得率や成績などのデータを適宜分析しており、その結果と教員や学生へのヒアリングを基に入試制度の設計を進めています。

今後はこれらに加えて、学生表彰制度（地域貢献やボランティア、スポーツ、資格取得などで顕著な活動や成績を残した学生を毎年200人程度表彰する制度）で表彰された“優秀な学生”の高校時代からの成長の経過を分析し、主体性等の評価に生かしていく予定です。このようにエビデンスを積み重ねて入試改革をはじめとした改革を行うことで、個性的な大学がつくりやすくなるのではないのでしょうか。私立大学にとって、これはチャンスだと考えます。

（談 入学センター長 出水淳）

入試改革先行大学に聞く！

鎌倉女子大学

▶神奈川県鎌倉市▶3学部5学科▶入学定員500名
▶1943年京浜女子家政理学専門学校として創設

入学準備教育としての新AO入試への転換

—2017年度入試から新たに高大接続重視型・専願制AO入試を実施しています。

以前のAO入試は、高校時代の正課外活動の実績をプレゼンテーションさせる入試でしたが、「高校時代の経験を大学でどう生かすのか」といった学びのビジョンが描けていない学生が目立ちました。新AO入試は「入試の段階で入学後のビジョンをしっかり描くこと」を意図して設計しました。名称を“高大接続重視型”としているのはそのためです。

エントリーシートはエビデンス付きでしっかり書かせるものに改善し、プレゼンテーションは各学科の学びに関連するテーマを出題、パワーポイント資料を準備したうえで発表させるものに変更しました。さらに面接と小論文、集団討論も課します。「各審査項目で学力の3要素のどれを評価するのか」を受験生に明確に伝え、ルーブリックの評価点も示しました。こうすることにより、受験生は受験対策を通じて、本学で学ぶための入学準備をすることになります。「対策されると、受験生の“素の部分”が見られないのではないか」という意見もありますが、それは集団討論の場で観察評価し、入学後の学生指導に生かすことを考えています。

—新AO入試実施後に見られる変化は？

まず、プレゼン等を通じて学びへのマインドセットができた上で入学するので、以前と比べ1年次のGPAが上がっています。また、中退者もほとんどいない状況です。以前はAO入試入学者を否定的に見る教員もいましたが、多くの教員が選抜に関わるようになったため、「この入試で入学してきた学生を育てよ

入試改革に関連するその他の検討事項

検 討 事 項	目 的 ・ 内 容	進 行 状 況
IR組織の体制見直し	▶各部署の実務に直結するIR活動の実現	▶IRを全学集中型から、各部署がIR担当者を出して組織する実務直結・協働型への移行を検討中
アドミッション・オフィスの機能の拡充	▶「学力の3要素を多面的・総合的に確認する、より丁寧な入試」の実現	▶アドミッション・オフィサーが活躍できる環境整備の足かりとして、AO入試のエントリーシートの審査を事務職員が行うように変更
高校訪問の見直し	▶従来の宣伝広報活動型から、高校の意見を吸い上げる形へのシフト ▶教員の負担軽減	▶教員の高校訪問は取り止め、研修を受けた事務職員が進学アドバイザーとして高校を訪問する形に変更済み

*鎌倉女子大学の入試改革の詳細は、Between情報サイトで紹介している。between.shinken-ad.co.jp/hu/



う」という気運が芽生えています。

高大接続改革は小規模大の強みを生かすチャンス

—入試改革を進めるために大切なことは？

まずは外部の声に耳を傾けることです。文科省の方針を先んじてAO入試で実践し検証改善を続けることで、改革への備えができました。同時に高校からの意見も受け止め、「調査書」の評価配点を増やし、高校訪問も、資料は要点を示したA4サイズ1枚にまとめ、「卒業生の近況を報告」「宣伝を控える」など、改善を行った結果、広報効果も出てきています。学内体制も重要です。本学では入試委員会を教授会の専門部会に格上げしたことで、意思決定がスムーズになりました。

—2021年度入試に向けた改革の進捗は？

一般選抜の内容と英語4技能の扱いは議論中ですが、総合型選抜についてはこの新AO入試をベースとし、成績推移によっては、定員を拡大することも考えています。学校推薦型では入学後の指導用に集団討論の導入やJePの活用も検討中です。

「少子化による大学淘汰」という話題になると、真っ先に危ないと言われるのが地方の小規模大学。この入試改革は、大規模大とは異なるやり方で存在感を示すよいチャンスです。時間をかけて丁寧に選抜し、入学後の学生一人ひとりを見た指導につなげられるのは、小規模大だからこそ。さかのぼってみると2014年に出された中教審の答申のサブタイトルは「すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために」でした。この原点に戻って考えることが、重要ではないでしょうか。

（談 入試・広報センター長 河村和宏）

入試改革先行大学に聞く！

追手門学院大学

▶大阪府茨木市▶6学部7学科▶入学定員1773人
▶さらなる教育の拡充を視野に2019年4月に新キャンパスを開設予定

狙いどおり自己実現に前向きで 主体性のある学生が増加

――アサーティブ施策*のスタートから4年が経過しました。見えてきた成果を教えてください。

アサーティブ施策は、高校生の大学で学ぶ目的や意欲等を、本学の職員が面談を通して育成し（アサーティブプログラム）、グループディスカッションや個別面接、基礎学力テストを通してプログラム受講の成果を評価する（アサーティブ入試）ものです。「この大学で学びたい、自分を成長させたい」という意欲を持って入学すれば、その後の成長に結びつくという考えで、思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性などを評価するべく、2014年度から開始しました。

それ以前、本学に第1志望で入学した学生は2、3割でしたが、今年の入学者の約5割が第1志望になりました。完成年度を迎えた今、本入試の検証に取り組んでいますが、アサーティブ施策によって志望度の高い学生が多く入学していること、大学生活に対して積極的な学生、「大学で学ぶことが楽しい」と話す学生が増えたことは大きな成果だと捉えています。大学で学ぶということがどういうことか、自分自身と向き合い、他者と話し、学びへの姿勢と意欲を持ったこと、そこに主体性が備わっているからだと考えます。

学生調査の結果から、アサーティブ入試での入学者（アサーティブ生）は、他の入試区分の入学者に比べ、進路に対する意識が高く、進路の実現に積極的な者が多いという結果が出ました。入学時の基礎学力は、一般入試合格者よりは低いものの、推薦合格者とは同等でした。2期生の基礎学力の年次推

質の担保を考えた入試の強化と 入学者の高い意欲に応える教学改革へ

移を見ると、2年次は相対的に低下するものの、3年次にV字回復したことがわかっています。そうした学力分析の結果をふまえて、学力テストに当初は英語はありませんでした。しかし、英語は大学で学ぶ基盤の1つですので、近い将来、加えていくことを検討中です。

――入試以外で変えたことは？

アサーティブ生は学びへの意欲が高い状態で入学してきます。その期待に応えるため、教学改革も同時に進める必要があります。入学時に大学での学びの体系を見通せるようにカリキュラムマップを作成し、科目ナンバリングも導入します。

アサーティブ課自体も入試部門から教務部に移りました。せっかく多様な学生が入学する大学になったのですから、授業の改善、他の入試方式で入学してきた学生との融合なども検討したいと思います。

学生・高校生のリアルな姿を 捉えたうえでの入試改革

――入試改革に取り組む他大学へメッセージを。

アサーティブ施策は、私たち自身が自学の学生にヒアリングを行い、学生の実態から仮説を立て、本学にとってベストな形として考え出した入試方法です。大学によって入学者の傾向も異なるはずですし、大学の組織や風土もそれぞれでしょうから、アサーティブ施策をそのままの形で取り入れることは難しいでしょう。しかし、「学生の成長を最優先で考え、高校生の目線で物事を捉える」という姿勢は、どの大学でも持てるのではないのでしょうか。入試改革は、入学を許可する大学としての責任の果たし方の1つの手段だと思います。（談 アサーティブ課課長 志村知美）



入試改革先行大学に聞く！

北陸大学

▶石川県金沢市▶4学部4学科▶入学定員570名
▶1975年開学▶THE世界大学ランキング日本版2018／国際性34位

入試を通じての学部の メッセージ発信が改革の狙い

――新AO入試を導入した背景は？

学部改組により経済経営学部が新設され、入学定員が100名から200名に増加するタイミングで、入試の見直しを行いました。そこで課題として挙げてきたのが入学者の構成比率で、スポーツ選抜の学生の割合が70%以上と偏りが大きいことでした。一般学生を増やすために、新たに「主体性・多様性・協働性」、つまりコンピテンシーを評価する「21世紀型スキル育成AO入試」（以下、21世紀AO）を導入することにしたのです。

入試を設計するにあたっては、“選抜”ではなく“接続”を重視しました。というのも、高大接続改革においては、大学の教育プログラムは入試から始まると捉えるべきだからです。また、経済経営学部では「マネジメント力の育成」を人材養成の目的としていることから、そのために必要なコンピテンシー（＝多様な人々と協働しながら課題を解決する力）を評価する入試を行えば、入試を通して本学部のメッセージを発信できると考えました。

コンピテンシーの評価については、これまでも行ってきた経験があったので、新しい入試の導入にためらいはありませんでした。

――どのような入試を実施しているのでしょうか？

受験生は約20人のグループに分かれて、集団で課題解決を行うアドベンチャー・プログラムに取り組みます。それに対して教員と職員がペアとなって1組が10人程度を観察評価し、面談も行います。職員が評価に加わるのは、新学部の方向性を職員にも共



有するためです。

評価に関しては、エントリーシートや評定値も組み込みますが、特に重視するのは、受験生自身の自己評価や振り返りの内容です。ただし、受験生の自己評価が高くても、観察評価や面談での評価とギャップがあれば、総合評価は高くなりません。逆に、自己評価が低くても、自己の弱みを正確に捉えていれば、面談などで高評価となり、総合評価は高くなります。つまりこの入試では、プログラムをうまくこなせるかよりも、自分のことをメタ認知できているか、自己の経験を言語化できているかをより高く評価します。リフレクションの質を見る入試なのです。

接続性を高めることで 「自分のための入試」になる

――新入試実施後の変化は？

2017年度入試では、一般選抜やセンター利用選抜での志願者数、入学者数が増えたこともあり、本学部のスポーツ推薦選抜の入学者比率は36%、2018年度入試では24%にまで下がりました。一方、21世紀AOの入学者比率は17%となり、彼らはさまざまな課外活動や学外ボランティアに積極的に参加するなど、学内に新風を吹き込んでいます。

21世紀AOの受験者には「これは自分のための入試だ」と思って受験する人がいます。自分が伸ばしたい力と入試で測る力、学部で育成する力が一致していることで、自己の成長をイメージしやすいから、そう感じるのだと思います。入試の改善と併せて、今後は入学前教育や学部カリキュラムを見直すことで、さらに学びの“接続”性を高めていきます。

（談 経済経営学部長 山本啓一）

入試改革に関連するその他の検討事項

検 討 事 項	目 的 ・ 内 容	進 行 状 況
経済経営学部での 教学改革の 推進	▶入学前教育の拡充	▶入学前学習プログラムの実施回数の増加を検討
	▶教育カリキュラムの刷新	▶2019年度に向け、肥大化した科目数の削減とカリキュラム体系化を検討中
大学全体の入試改革の 推進	▶21世紀AOの全学展開	▶2017年度入試から経済経営学部、国際コミュニケーション学部で、2018年度入試から薬学部、医療保健学部で21世紀AOを実施。学部特性に合わせた新しいAO入試を全学部で導入済み ▶アドミッション・オフィサーの育成に取り組む ▶高大連携協定校ほか地元高校との関係強化を図る

* 北陸大学の入試改革の詳細は、Between情報サイトで紹介している。between.shinken-ad.co.jp/hu/

*追手門学院大学の選抜方式である「アサーティブ入試」、その前段階である「アサーティブプログラム」をまとめた呼称。
詳細は、本誌2016年6-7月号で紹介している。Between情報サイトでも閲覧可能。between.shinken-ad.co.jp/between/